

赤穂高校美術部が制作 JA直売所にアート 青果やキャラ多彩に

赤穂高校美術部が元町のJA直売所「旬彩蔵赤穂」(塚本幸一店長)で青果やマスコックトキャラクターを絵柄にシャッターアートを描いた。カラフルな作品が店舗のアップルに役立っている。

店舗北側の壁面(縦3段、横4・2段)には店名をレタスや玉ねぎ、ブドウなどででき

やかに囲んだデザイン。倉庫入り口のシャッターは擬人化した野菜のイラストとともにJA兵庫西のマスコックトキャラクター「にっしー」と赤穂市の観光マスコックト「陣たくん」を描いた。

「店舗のイメージアップを図りたい」とい

う同店の依頼を引き受け、美術部員11人が「みんなに愛される旬彩蔵赤穂」をテーマに制作した。野菜や果物の色をできるだけ実物に近づけるように塗料の調合にこだわり、シャッターの凹凸に苦労しながら約1か月かけて完成させた。

原画を担当した部長の藤田大喜さん(17)は2年間は「こんな大きな作品を描いたのは初めて。たくさんの人に見てもらえるのはうれしい」。店の前を通る市道からも目に止まりやすく、旬彩蔵赤穂の福田政浩さん(68)は高野は「明るくフレッシュな雰囲気で、うちの店にぴったり」と作品の出来映えに満足した。(写真は旬彩蔵赤穂に完成したシャッターアートと制作した赤穂高校美術部のみなさん)

